

Challenge

いただき せん の すけ
頂仙之助さん (力士・伊勢ノ海部屋)

いつか、結びの一番を取れる力士に

相撲界の名門・伊勢ノ海部屋。ここで今、幕内力士を目指して日々稽古に励んでいるのが、武蔵野市出身の19歳、頂だ。現在、番付は三段目だが、番付を着々と上げている頂の原動力とは。

「相撲が好き」と
 素直に思えた子ども時代

相撲が大好きな母の影響で、幼い頃からテレビで大相撲を観戦。小学校3年生のときに初めて、武蔵野市で開催されたわんぱく相撲に参加し、元十両力士の維新いしんりき力士の目に留まった。「相撲教室に誘われて、6年生まで続けました。遊び感覚だったので、ただ楽しかったです」

中学校時代は相撲から離れ、



頂仙之助(いただきせんのおすけ)

本名：菊池政彦。1994年9月5日、日本人の母親とカナダ人の父親の間に生まれる。武蔵野市に店を構える元十両・維新力士に誘われて角界入り。初土俵は2010年3月場所。今年五月場所での番付は三段目二十枚目。187cm、112kg。



五月場所前に配られた番付表。指の先に四股名。

辛い時期を越えて 成長期に突入

バスケットボール部などに所属。だがどの部活動からも本当にやりたいことが見い出せなかった。「勉強もあまり得意ではなかったし、高校に進学するかどうかが悩んでいたとき、維新力士さんが『本気で相撲をやってみないか』と言ってくださって。何も考えず、この世界に飛び込みました」

それまで送ってきた日々とは全く異なる相撲部屋での生活が始まった。掃除、洗濯、ちゃんこの片付け、先輩力士の付き人の仕事などは気も遣い、なかなか慣れることができなかった。「部屋に入ってしばらくは、戸惑うばかりで、気が付いたら、

1年間で体重が10kgも減っていました」

高校に進学した友人たちは、みんな楽しそうに生活している。うらやましかったが、そのうち本場所ですごしたときの喜びが自分を支えるようになっていった。「昨年の七月場所から余計な力が抜けて、今年の三月場所まで勝ち越しを続けることができています。相撲でしか味わえない充実感が、やる気につながっている感じです」

年に3回、本場所明けに1週間の休みがもらえる。そのときは武蔵野市に帰って、友人と会って気分転換する。もう友人をうらやましく思うことはない。「今は早く番付を上げたいです。憧れは維新力士さんや日馬はるま富士関のようにスピーディーな相撲を取ること。当たって真つすぐ前に出ることだけ考えています」



目標は横綱白鵬関と当たること!